

# 「かがやきの丘 ボランティア講座」が開催されました



令和5年7月27日（木）・28日（金）の両日、かがやきの丘3校の主催により、視覚障害児（者）・聴覚障害児（者）・肢体不自由児（者）の支援に関するボランティア講座を開催しました。

実際にボランティア活動にかかわっている方の講演を聞き、また視覚障害・聴覚障害・肢体不自由のある障害児（者）へのかかわり方について、講話やVTR視聴、疑似体験等を通して理解を深めました。

## 開講式の様子



猛暑の中、高校生及び一般の方々11名が参加されました。高校生の割合が年々高まり、うれしく思います。

かがやきの丘3校で使用されている教材・教具やさまざまな書籍を展示し、障害への理解を深めていただきました。



## 展示コーナー



## 講演会 「NPO（市民活動）・ボランティアとは？」

講師：NPO法人あきたパートナーシップ（遊学舎） 宮崎 真紀 氏

秋田県ゆとり生活創造センター「遊学舎」でNPO活動の支援をいらっしゃる宮崎さんを講師にお迎えし「NPO（市民活動団体）」と「ボランティア」の違いやボランティア活動の種類等、基礎的なことから分かりやすくお話していただきました。

遊学舎は7月の大雨災害で被害に遭った方へのレンタカー提供についても支援拠点としてかかわっているとのこと。他にも県内のさまざまな団体について紹介していただき、あらためてボランティアとは「～してあげる」ものではなく、「お互いさま」の関係で、誰にとっても身近な活動であると実感しました。

後半はワークショップで今回の講座に参加したきっかけや実際のボランティア経験などを話し合い、仲間意識が高まりました。



## 視覚支援学校「視覚障害児・者の理解とかかわり方」

講座では「見えない・見えにくい方への支援について」をテーマにスライドを見ながら研修しました。見えにくさには、視野が狭い人やまぶしさがあるなど、それぞれに違いがあることを、シミュレーション映像で確認しました。

実技では、アイマスクを使用して、見えにくい人を誘導する「手引き」について体験しました。

誘導される役とガイド役を交互に体験することで、相手を気遣うことの大切さを感じました。



## 聴覚支援学校「聴覚障害児・者の理解とかかわり方」



雑音が流れるヘッドホンを使用して、難聴の人の気持ちを理解する体験を行いました。周りの人が何を話しているのか分からないという状況で、非常に不安な気持ちになり疎外感を感じることや、文字やジェスチャーで教えてもらおうと安心して嬉しい気持ちになるということを実感しました。「補聴器をつけている後輩の気持ちが分かった」「目に見えない障害だと理解しているようで理解していなかった」という感想が聞かれました。手話研修では、挨拶の手話や自分の名前を指文字で表現する練習に熱心に取り組んでいました。

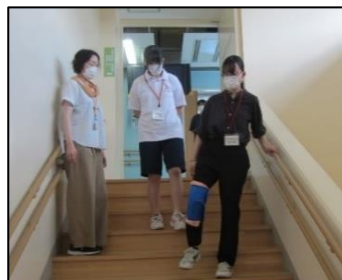


## 秋田きらい支援学校「肢体不自由児・者の理解とかかわり方」

車椅子介助体験では、「どんな介助が必要で、どのように介助してほしいか」「声をかけてから支援すること」「無理をせず、互いの安全を第一にすること」を学びました。段差を通る際や曲がる際に声を掛けながら体験を行っていました。

足の不自由な方の介助体験では、実際に足の不自由な方、また介助者の立場になり、階段の昇降を行いました。動かしづらさを感じ、どんな時に介助が必要かを知ることができました。

双方の視点で考えることで、「同じ目線に立つこと」が重要だと考える機会となりました。



## <参加者の感想紹介>

- 講演では、普段使っている遊学舎でこんな活動をしていると知り、びっくりしたとともに、今後友達と一緒にNPOに参加させてもらいたいと思いました。
- 実際に体験することによって、支援することの大切さを感じることができました。
- どのようにお手伝いすればよいのかを分かりやすく教えていただけた。これから困っている人を見かけたら積極的に声を掛けていこうと思いました。
- 車椅子に乗ってみたのは初めてです。小さい段差も車椅子には乗り越えられない。街の中は危険なんだな、と思いました。
- 実技を通して、支援の詳しい手順や障害のある方にかかわる人の生の声を聞くことができ本当に良かったです。もっとユニバーサルデザインが世の中に広がり、誰もが暮らしやすくなることを目指していきたいです。

